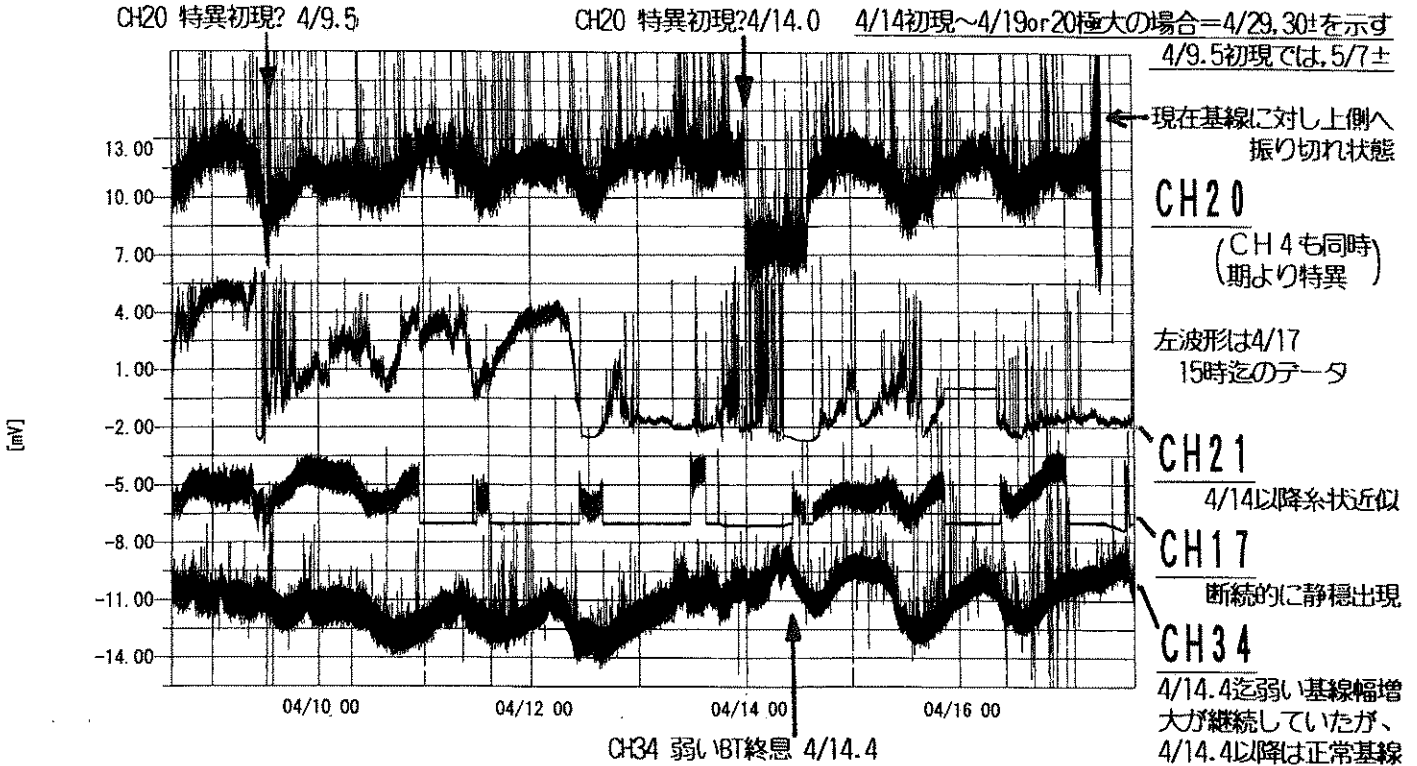


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 4月19or20極大の可能性を示す変動観測 4月下旬迄発生無し



No.1778長期継続特殊前兆につきましては、3/31.5がピークと認識され、初現は3/21と認識されました。この関係から4/20±が示されました。この時期が対応地震発生4/20±となる場合には、4/15±に前兆が全て終息することが予想されました。

仮にこの時期に前兆が終息しない場合は、示された4/20±にピークが出現することも推定されていました。

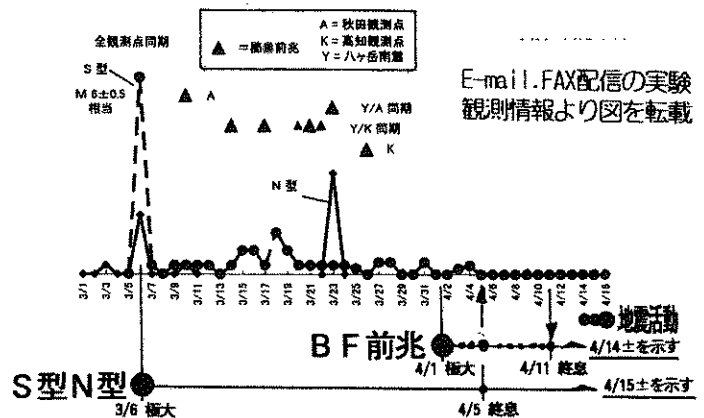
誤差も鑑み前兆の動向を観測していましたが、上波形のとおり、4/17現在前兆は継続しています。従って、4/20±時期には対応地震の発生はあり得ないこととなります。

本日迄の観測データで、4/14午前中にCH34の基線幅が減少している状況が観測されていました。それまで基線幅増大率が微小であり、継続していたため、誤差範囲の基線幅の可能性を認識しておりましたが、上図の様に時間軸を圧縮して基線を表示させますと、4/14以前と以降は明らかに基線幅の値が異なることが明確です。CH34の4/14以前の基線幅値は長く継続していたと認識されます。4/14午前(4/14.4)にCH34基線幅増大BTが終息した事実は、3/31.5極大に対する前兆終息変化の一部である可能性が考えられます。この関係をTfap:Tpp=6:1 経験式に当てはめると、3/31.5極大~4/14.4終息⇔4/19.2±の結果となります。これは4/20±を示す関係と調和します。

さて、この4/14の00時頃よりCH20に大きな変動の特異状態が認められます。同時期からCH04にも特異状態が出現し、CH04は不規則変動の特異状態が継続出現しています。このCH20が本日昼前より基線に対し上側へ大きく振り切れ状態。CH04の変動も大きくなっており、特異全体が大きくなっています。CH21も系状近似状態。これらのことから4/14.0を初現とする変動認識ができます。但し4/9.5からも若干特異変動が認められます。

4/19~20にピークが出現する可能性が強く示唆され、初現4/14を初現とした場合には、4/29~30±時期を示すこととなります。但し4/9.5が初現の場合には、5/7±時期を示すこととなります。以上から、少なくとも4/20±発生の可能性は否定され、4/20±に極大が出現するか、まずは4/23±迄観測を続け決定予定。その後は前兆終息変化を鑑み、4/29±か5/7±か判断予定です。※領域、規模、発生時刻は現在迄の推定内容に修正ありません。

熊本~大分 顕著地震活動について(後考)



熊本~大分の顕著地震活動については、3/6極大で過去例の無い長期の火山帯近傍地殻地震前兆を観測。またBF前兆では、4/5極大を観測。どちらも極大~終息の観測から4/14±と4/15±が求められる。4/2時点で4/13±4 発生の可能性を報告。M6.5迄は推定されましたが前兆はM0.8~1減衰の可能性有。長野北部地震と同様に通常の地震前兆が出現しにくい地震の可能性有。